

## 北岳バットレス中央稜

2010年8月7～9日

L 齊藤（記）、鈴木直美（雪稜登行会）

3週間前、第四尾根を登る為、初めて北岳バットレスを訪れた。第四尾根上部から見た中央稜の圧倒的な存在感が忘れられず、今回の再訪となった。中央稜といえば松濤明氏の初登や RCCII パーティーの冬季初登という日本のクライミングシーンにおいてあまりにも有名かつ輝かしい記録があるそれらの登攀記にこの私も随分興奮させられた。通常、中央稜に取り付く場合、第四尾根等から継続する事が一般であるが、確実に中央稜を完登しておきたいという思いを込めて、登攀1日目は北岳山頂からアプローチして中央稜1本にねらいを絞る事とした。そして、登攀2日目は下部フランケ～D ガリー奥壁の登攀を予定した。

8/7 広河原でバスを降りると北岳が青空をバックに聳え翌日の登攀意欲をそそる。しかし、この炎天下に肩の小屋まで登ると思うと気が重い。3週間前に大樺沢を埋め尽くしていた雪渓はすっかり消えていた。連日の猛暑のせいだろう。肩の小屋のテンバに着くと翌日の本番に備えてゆっくりと静養をとる。

8/8 まだ、夜が明ける前にテンバを後にする。肩の小屋から同じく山頂へと何組かの登山者が共に向かう。皆、山頂で御来光を迎えるのが目的のようだ。丁度、朝日の昇る頃、山頂を越え第四尾根の終了点へと踏み後を下降する。第四尾根の終了点には既に、1パーティーがビバークしていた。聞くとやはりこれから中央稜を登るという山登魂さんのパーティーであった。そこから、中央稜の取り付きへと下りる懸垂下降支点は平本さんより情報を聞いていた為、(感謝!) すぐに見つける事が

出来た。岩小屋の辺りから中央稜側に覗き込んだ所の這松に懸垂下降支点があった。1P 降り立った所から、降りてきた壁を背にして緩傾斜の岩を 10m ほど登り返し、顕著な下降支点でピッチを切る。パートナーの鈴木さんの到着を待ち、ロープを引き抜く。これによって完全に退路を断たれ、中央稜に登りきる以外に帰る術が無くなった事で身が引き締まる。(ガラガラの C ガリーを下る手はあるが、かなり危険?) そこから中央稜 2P 目の終了点を中継して 2P の懸垂下降で C ガリーに降り立つ。何とも陰鬱な雰囲気だ。山登魂さんパーティーの下降を待ち、1P 目の登攀をスタートする。緊張で体が硬い。取り付きから僅かに確認出来る残置支点を目掛けて直上した後、バンドを左へトラバースする。ホールドが遠く嫌なトラバースだ。万が一の場合最後にとったプロテクションは耐えてくれるのだろうか? と嫌な思考が巡る。1P 目の終了点に着き、ひとまず胸を撫で下ろす。2P 目は鈴木さんにリードを代わる。プロテクションの乏しい凹角を直上。スムーズにピッチをこなす。3P 目は第二ハングの弱点を目掛けてツルンとしたスラブを右へトラバースする。足元に虚空の空間が広がる中、小さなスタンスを拾いながらのトラバース。暫しの間、高度感を楽しむ。4P 目はルート中のクライマックスである第二ハング越えだ。ハングの弱点についての乗り上がりは思い切りが必要な所だ。ハング越えの後、右のリッジに出なくてはいけない所を直上してしまい、ルートを外れ行き詰ってしまう。その間に山登魂さんパーティーが先行する。結局、懸垂下降してハング下まで戻り、気を取り直して仕切り直す。正規ルートを見つけリッジ上へと出る。この辺りから風が出始め、霧が押し寄せ非常に寒い。5P 目リッジ上を大きなホールドを拾いながらロープを伸ばす。6P 目、傾斜は序々に落ち始めるが、浮石が目立ち気が抜けない。そこから、緩傾斜帯を 2P ロープを伸ばし、北岳

の山頂に飛び出した。暫しの間、満足感に浸りながらギヤの整理を終え、肩の小屋のテンバへと戻る。テンバに戻ると荷物を纏め、翌日の登攀に備えてテンバを御池小屋へと下ろす。夜、テントで寝ていると、深夜になって強い雨が降り出し、8/9 泣く泣く下山する。天気心配は全くしていなかった為、正直この雨には面食らってしまった。しかし、中央稜だけでも登れて本当に良かったと思う。この登攀を終えて、初登者の勇気と並外れたクライミングセンスに驚いたと共に本当に素晴らしいルートだと思った。次に登る時にはピラミッドフェース等からの継続でより大きな充実感を味わいたいと思う。勿論、今回残した宿題も早くリベンジしたいところだ。最後に今回、登攀を共にしてくれたパートナーの鈴木さんに感謝します。

コースタイム

8/7 6:15 広河原 6:25~7:25 二股~11:40 北岳  
肩の小屋

8/8 3:00 起床 4:15 肩の小屋~5:00 第四尾根  
終了点~6:50 中央稜取り付き~12:30 北岳山  
頂~13:30 肩の小屋 14:30~16:30 白根御池小  
屋

8/9 雨天の為、下山